

総題 「この最も小さい者」

第8課 「この最も小さい者」

真田 治

1. 安息日午後

イエスさまの教えは私たちの生活に役立つものであり、
イエスさまの教えを知ると、神さまを信じて生きるとはどういうことかが分かるようになります。
主イエスさまは、間違ったことをなさいませんでした。
イエスさまは親切なことをなさいました。
イエスさまは、やさしい人でした。
イエスさまが地上にいらっしゃったときの生き方を知れば、私たちがどう生きて良いのかが分かるのです。
イエスさまのお手本を見習って生きる私たちは、他の人たちを助けるようになります。
皆さん、今期 7月から9月の安息日学校ガイドの題は
『この最も小さい者——助けを必要としている人たちへの奉仕』ですね。
そして、今週 8月17日から24日のタイトルも『この最も小さい者』ですね。
この3カ月間の中で、今週が一番大切かも知れません。さあ、お祈りをして勉強を始めましょう。
「天の神さま。今週は『この最も小さい者』という勉強をします。
でも、勉強だけが大切なわけではありません。
イエスさまは親切だったように、私も親切にできることのほうが、もっと大切だと思います。
他の人たちを親切に助けることができる私になれますように。
イエスさまのお名前によって、お祈りいたします。アーメン」

2. 日曜日：山上の説教の導入

マタイ福音書 5～7章に、「山上の説教」というイエスさまによる説教が書いてあります。
その最初の箇所、マタイ福音書 5章 3節から10節を読んでみましょう。

心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。
悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。
柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ。

ぎ う かわ ひとびと さいわ ひと み
義に飢え渴く人々は、幸いである、その人たちは満たされる。

あわ ふか ひとびと さいわ ひと あわ う
憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける。

こころ きよ ひとびと さいわ ひと かみ み
心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。

へいわ じつげん ひとびと さいわ ひと かみ こ よ
平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

ぎ へくがい ひとびと さいわ てん くに ひと
義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。

こころ まず ひとびと しあわ
「心の貧しい人々」は、どうして幸せなのでしょう。

こころ まず ひとびと じぶん かみ ほか ひと たす ひつよう き
それ(心の貧しい人々)は、自分は神さまや他の人たちから助けをもらう必要があることに気がついている
からです。

じぶん かみ ほか ひと たす ひつよう き ひと かみ
そういう(自分は神さまや他の人たちから助けをもらう必要があることに気がついている)人は、神さまに
助けられて天の国に入れていただけます。そして、そういう(自分は神さまや他の人たちから助けをもらう必要
があることに気がついている)人は、助けてほしいと思っている他の人たちを助けることができます。

かな ひとびと しあわ
「悲しむ人々」は、どうして幸せなのでしょう。

かな ひとびと じぶん かんぜん にんげん ほか ひと めいわく き
それ(「悲しむ人々」)は、自分が完全な人間でないことや他の人たちに迷惑をかけたことがあることに気が
ついているからです。

じぶん かんぜん にんげん ほか ひと めいわく き
そういう(自分が完全な人間でないことや他の人たちに迷惑をかけたことがあることに気がついている)
人を神さまは慰めてくださいます。

じぶん かんぜん にんげん ほか ひと めいわく き
そして、そういう(自分が完全な人間でないことや他の人たちに迷惑をかけたことがあることに気がついて
いる)人は、悲しんでいる他の人たちを慰めることができます。

にゅうわ ひとびと しあわ
「柔和な人々」は、どうして幸せなのでしょう。

にゅうわ
柔和というのは、おだやかなことです。

かみ しん つづ
イヤなことがあっても神さまを信じ続けます。

にゅうわ ひとびと いか
柔和な人々は怒りません。

いか ひと ともだち ぼめん かつやく はたら
あまり怒らないから、たくさんの人たちと友達になれ、いろいろな場面で活躍(どこでも働くこと)ができ
ます。

ち う つ かつやく はんい ひろ はたら はたら ながつづ
地を受け継ぐとは、活躍の範囲が広く(どこでも働けて)、(働きが)長続きすることです。

ぎ う かわ ひとびと しあわ
「義に飢え渴く人々」は、どうして幸せなのでしょう。

ぎ う かわ ひとびと じぶん も かみ ひつよう き
それ(「義に飢え渴く人々」)は自分が持っていないものを神さまからいただく必要があると、気がついている
からです。

ぎ も ひと も ひと あた
「義」は、持っている人が持っていない人に与えることです。

かみ あた ひと すく よろこ み
神さまから与えられる人は、救われている喜びに満たされます。

ほか ひと かみ ぎ つた
そして、他の人たちにも、神さまがくださる義のことを伝えます。

あわ ふか ひとびと しあわ
「隣れみ深い人々」は、どうして幸せなのでしょう。

あわ ほか ひと くる きも りかい
隣れみというのは、他の人の苦しい気持ちを理解することです。

ほか ひと きも りかい おな きも ともだち
他の人の気持ちを理解したら、同じ気持ちになれ、友達になります。

しあわ
だから幸せなのです。

ほか ひと きも りかい おな きも ともだち ふ じぶん くる きも
そして、そういう（他の人の気持ちを理解したら、同じ気持ちになれる）友達が増えると、自分が苦しい気持ちのときには他の人たちが同じ気持ちになって、理解してくれます。

こころ きよ ひとびと しあわ
「心の清い人々」は、どうして幸せなのでしょう。

こころ きよ ひとびと いま しゅうちゅう
それ（心の清い人々）は、今しなければならぬことに集中するからです。

いま しゅうちゅう ひと かみ いの かみ かんが
そういう（今しなければならぬことに集中する）人が神さまに祈るときは、神さまのことだけ考えます。

かみ であ
だから、神さまに出会うことができるのです。

いま しゅうちゅう ひとびと ほか ひと たす たす
そして、そういう（今しなければならぬことに集中する）人々は、他の人たちを助けるときにも助けることに集中するので、他の人たちから信頼されます。

へいわ じつげん ひとびと しあわ
「平和を実現する人々」は、どうして幸せなのでしょう。

へいわ あらそ ほか じゃま なかよ ちか
平和というのは争いが無いことで、他のものに邪魔されないで仲良く近づけることです。

ほか じゃま かみ ちか おや かみ あい わ
他のものに邪魔されないで神さまに近づけると、やさしい親のような神さまの愛が分かります。

あらそ ほか じゃま なかよ ちか ひとびと ほか ひと
そして、そういう（争いが無いことで、他のものに邪魔されないで仲良く近づける）人々は、他の人たちとの間にも争いがありません。みんなが「神の子ども達」です。

ぎ はくがい ひとびと しあわ
「義のために迫害される人々」は、どうして幸せなのでしょう。

ぎ かみ も すく も わたし かみ う と
「義」は、神さまだけが持っている救いを、持っていない私たちが神さまから受け取ることです。

はくがい すく じゃま じゃま すく う と ひとびと かなら
迫害とは救われるのを邪魔されることですが、だれかに邪魔されても救いを受け取ろうとする人々は、必ず天の国に入れてもらえます。

じゃま すく う と ひとびと ほか ひと すく う と
そして、そういう（だれかに邪魔されても救いを受け取ろうとする）人々は、他の人たちが救いを受け取るのを、ぜったいに邪魔しません。
すく たいせつ し
救いの大切さを知っているからです。

3. 月曜日：善をもって悪に勝つ

しよ じゅうに しょう じゅうきゅう から にじゅういち せつ
ローマ書 12章 19～21節

愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。『復讐はわたしのすること、わたしが報復する』と主は言われる」と書いてあります。「あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渴いていたら飲ませよ。そうすれば、燃える炭火を彼の頭に積むことになる。」悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。

皆さん、悔しい思いをしたこと、ありませんか？

他の人からイヤなことをされて、仕返ししたいと思ったことは、ありませんか？

(仕返しと復讐と報復は、だいたい同じ意味です。)

でも、神さまは言われます。

「あなたは他の人に仕返ししてはいけませんよ。もしも仕返しが必要だったら、あなたの代わりに神が相手の人に対して仕返ししてあげます」。

では、もしもあなたが仕返ししたい相手がいるとして、あなたは、どうすれば良いのでしょうか。

相手の人に、あなたは親切にするのです。

相手の人がお腹が空いていたら食べさせてあげ、相手の人がのどが渴いていたら飲ませてあげるなど、親切にします。

すると、相手の人は思います。

「自分はこの人に親切にしなかったけど、あの人は自分に親切にしてくれた。申し訳ないことをした、自分は反省しなければならぬ」。

この「自分は反省しなければならぬ」という気持ちを相手の人に持たせるのが、神さまによる仕返しなのです。

さっきの聖句ローマ書 12章 20節に「燃える炭火を頭に積む」という言葉がありますが、これは、頭が熱くなるぐらいに相手の人が反省するという意味です。

神さまは言われます。

「仕返ししたい相手がいれば、その相手の人に親切にしてください。すると、その相手の人が反省するように、神が導いてあげます」。神さまの言葉どおり親切にすることが「善をもって悪に勝つ」ことです。

4. 火曜日：善いサマリア人

1人の律法の専門家が、イエスさまに質問しました。

「わたしの隣人とはだれですか」(ルカ福音書 10章 29節)。

その質問にイエスさまが答えて話された物語が、有名な「善いサマリア人のたとえ話」です。

だいたい、こういう内容です――。

ある人が歩いていると、強盗に襲われて大ケガをし、死にそうになって倒れていました。

そこに祭司が通りかかりましたが、大ケガをした人を助けずに立ち去りました。

レビ人も通りかかりましたが、大ケガをした人を助けなくて立ち去りました。

そして、サマリア人が通りかかりました。

大ケガをした人とサマリア人は仲が悪い民族なのですが、そのサマリア人はケガをした人を助けてくれました。

祭司とレビ人とサマリア人のうち、大ケガをした人の隣人になったのは、だれでしょうか？

もちろん答えは、サマリア人ですね。

さっきの律法の専門家の質問に対して、イエスさまは、隣人は親切にする人ですと、教えようとなさったのです。

しかし、イエスさまは、もっと大切なことを教えておられます。

それ(もっと大切なこと)は、「行って、あなたの助けを必要としているすべての人に親切にしてください」、「すべての人の隣人になりなさい」ということです。

本当の宗教は、やさしさや愛を実行することです。

本当の宗教は、他の人たちに最高の幸福を届けることです。

それ(やさしさや愛を実行すること、他の人たちに最高の幸福を届けること)が、イエスさまの教えです。

5. 水曜日：金持ちとラザロ

ルカ福音書 16章 19 ~ 31節には、イエスさまがお話しされた「金持ちとラザロのたとえ話」が書いてあります。

だいたい、こういう内容です――。

ある金持ちの玄関の前に、ラザロという名前の物乞いの男性がいました。

でも、ラザロは、その金持ちから親切にしてもらったことはありません。

あるときラザロは死んで、天の国に入れてもらえました。

そして、金持ちも死にましたが、行き先は苦しい陰府でした。

金持ちが天を見上げると、ラザロだけでなくアブラハムもいます。

金持ちは大声でアブラハムに助けを求めました。

でも、アブラハムは(金持ちを)助けることができません。

天の国と陰府(死者が行く所)とは、行き来することができないのです。

そこで、金持ちは、まだ生きていて地上で生活している家族の所までラザロに天の国から行ってもらい、親切な生活をするように伝えてほしいと、アブラハムにお願いをしたのです。

しかし、アブラハムは、この願いのようにすることも、できませんでした。

すでに聖書があるので、ラザロの言葉ではなく聖書の言葉のように生活すれば良いからです。

さて、この話、たとえ話ですから、すべてが本当の出来事なのではありません。

陰府と天の国との間で会話ができるとか、「滅び」という意味の陰府でも生き続けることができるとか、実際のこととは思えません。本当の出来事ではないのです。

出来事としては本当ではなくても、この話によってイエスさまは大切なことを教えてくださいました。

① この世で私たちがどう生きるかが、私たちが天の国に入れるか入れないかを決めるのに大切である。

② 聖書を信じて生活しましょう。聖書を書かれた神さまを信じて生活しましょう。

③ 困っている人たちには親切にしましょう。

火曜日に学んだ「善いサマリア人」のように聖書に書いてある親切な生き方をすることは、私たちが天の国に入れてもらえるためにも大切なことなのです。

6. 木曜日：この最も小さい者

マタイ福音書 25章 14 ~ 30節には、有名な「タラントのたとえ話」が書いてあります。

だいたい、こういう内容です――。

ある人が旅に出発する前、自分の財産を従業員たちに預けました。

それ（財産）を資金にして商売をさせるためです。

1人目には5タラント（約3億円）、

2人目には2タラント（約1億2千万円）、

3人目には1タラント（約6千万円）。

しばらくして、その人（旅に出た人）は旅から帰ってきました。

3人がどのぐらい稼いだかを確かめます。

1人目は5タラントを稼いで計10タラント。

2人目は2タラントを稼いで計4タラント。

しかし、3人目は、そのお金を隠しておいたので増額していません。

その3人目は手元の1タラントを取り上げられて10タラントの人に渡すことになり、それどころか、3人目の従業員さんお島出されてしまいました。

さて、この話で、旅に出て帰ってくる人はイエスさまのことです。

イエスさまは天の国に旅立たれましたが、再びこの世に戻ってこられます。

それ（再びこの世に戻ってこられること）を再臨と呼びますよね。

イエスさまが再臨なさる前に何をしているかが大切なのです。

自分にできることをしている人たちは、5タラントとか2タラントの人たちのように、イエスさまが再臨なさ

るときに、ほめられます。

でも、自分^{じぶん}にできることを隠^{かく}している人^{ひと}は、1タラント^{いち}の人^{ひと}のように、追^お出^だされてしまいます。

では、私^{わたし}たちに「できること」は、なんでしょか。

マタイ福音書^{ふくいんしょ} 25章^{にじゅうごしょう} 31節^{さんじゅういち} から 46節^{よんじゅうろくせつ}の、「すべての人^{ひと}々^{びと}を分^わける話^{はなし}」を考^{かんが}えます。

だいたい、こ^{ない}う内容^{りよう}です——。

イエスさまが再臨^{さいりん}なさるときに、すべての人^{ひと}々^{びと}が右^{みぎ}か左^{ひだり}か^わに分^わけられます。

右側^{みぎがわ}は、イエスさまに親^{しんせつ}切^{せつ}にした人^{ひと}々^{びと}でした。

でも、右側^{みぎがわ}にいる人^{ひと}々^{びと}は、自分^{じぶん}たちがイエスさまに親^{しんせつ}切^{せつ}にした覚^{おぼ}えがありません。

そこで、イエスさまがお答^{こた}えになります。

「はっきり言^いっておく。わたしの兄^{きょうだい}弟^{だい}であるこの最^{もっと}も小^{ちい}さい者^{もの}の一人^{ひとり}にしたのは、わたしにしてくれ^いたことなのである」と。

「この最^{もっと}も小^{ちい}さい者^{もの}」というの^なは、お腹^{なか}が空^すいている人^{ひと}、のど^{かわ}が渴^{かわ}いている人^{ひと}、寝^ねる所^{ところ}がない人^{ひと}、服^{ふく}を着^きていない人^{ひと}、病^{びょう}気^きの人^{ひと}、牢^{ろう}屋^やにいる人^{ひと}などでした。

そういう（「この最^{もっと}も小^{ちい}さい者^{もの}」）、弱^{よわ}かったり困^{こま}っていたりする人^{ひと}たちに親^{しんせつ}切^{せつ}にすることが、イエスさまに親^{しんせつ}切^{せつ}にすることだったので^す。

一方^{いっぽう}の左^{ひだりがわ}側^{がわ}の人^{ひと}々^{びと}は、イエスさまに親^{しんせつ}切^{せつ}にしなかつた^いとイエスさまから言^いわれます。

しかし、左^{ひだりがわ}側^{がわ}にいる人^{ひと}々^{びと}は、自分^{じぶん}たちはイエスさまに親^{しんせつ}切^{せつ}にしたつもりなので^す。

そこで、イエスさまがお答^{こた}えになります。

「はっきり言^いっておく。この最^{もっと}も小^{ちい}さい者^{もの}の一人^{ひとり}にしなかつたのは、わたしにしてくれ^いなかつたことなのである」と。こうして、永^{えい}遠^{えん}の命^{いのち}を受け取^うる人^{ひと}々^{びと}と、永^{えい}遠^{えん}の滅^{ほろ}びを受け^うける人^{ひと}々^{びと}とが分^わけられます。

では、皆^{みな}さん、さっきの「タラントのた^たとえ話^{はなし}」で、「できること」をした人^{ひと}たちはほめられましたが、「できること」をしなかつた人^{ひと}はお出^おだ^だされました。

その「できること」とは、なんでしょか。

そうです、親^{しんせつ}切^{せつ}にすることです^ね。

弱^{よわ}っていたり困^{こま}っていたりする人^{ひと}に親^{しんせつ}切^{せつ}にすることが、永^{えい}遠^{えん}の命^{いのち}か永^{えい}遠^{えん}の滅^{ほろ}びか^きを決^きめるので^す。

私^{わたし}たちは、だれ^{しんせつ}かに親^{しんせつ}切^{せつ}にするた^とめに遠^{とお}くに行^いく必要^{ひつよう}などありません。

いつも近^{ちか}くで会^あっている人^{ひと}たちのた^ために、できること^{こと}があります。

7. 金曜日^{きんようび}：さらなる研^{けん}究^{きゆう}

イエスさまは、み^{あい}んなを愛^{あい}してくださっています。

イエスさまの目^めで見^みると、み^{あい}んな愛^{あい}されてい^こる子^こどもです。

イエスさまの目^めからは、敵^{てき}と友^{とも}達の^{ちが}違^{ちが}いはありません。

わたし
私たちがイエスさまのことを知れば知るほど、どんな人たちのことも私たちは大切にようになります。
イエスさまは、私たちが親切な人へと、変えてくださるのです。